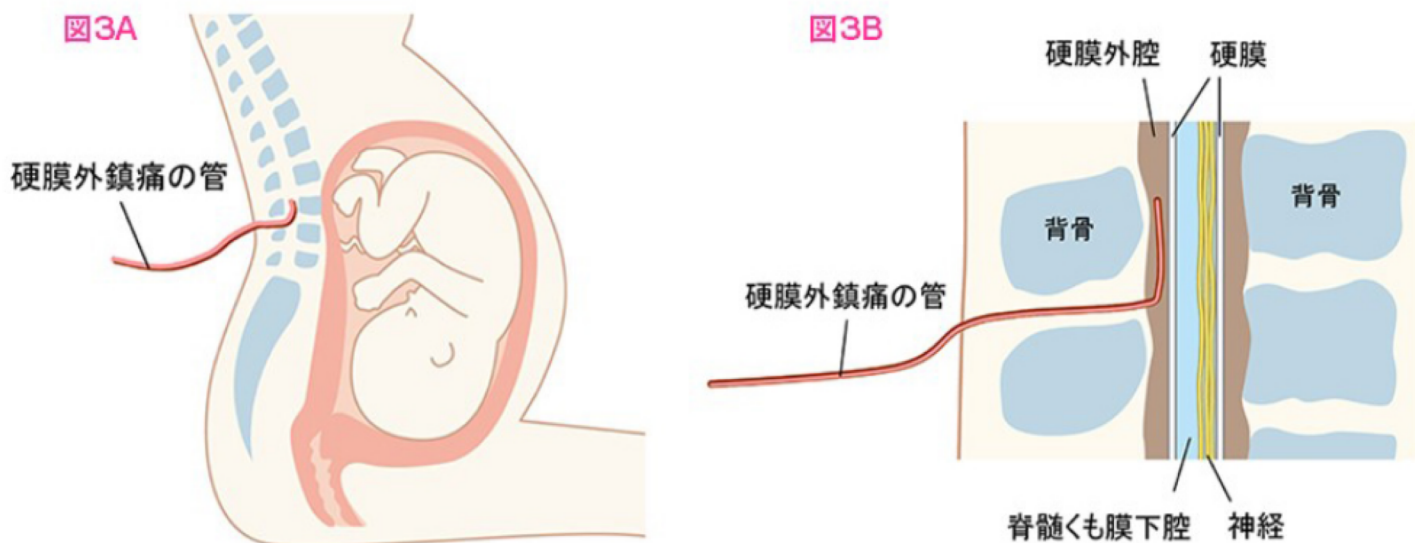


無痛分娩とは

麻酔を使って陣痛の痛みを緩和し分娩する方法です。当院では「硬膜外麻酔」を用いて麻酔を行い無痛分娩を行っております。（分娩の進み具合によっては、「硬膜外麻酔」よりも効果発現の早い「脊髄くも膜下麻酔」での無痛分娩を行うこともあります。）「硬膜外麻酔」・「脊髄くも膜下麻酔」のどちらの麻酔でも、お母さんのへそから下の感覚を鈍くし陣痛・分娩の痛みを緩和します。

無痛分娩の方法

ここでは、麻酔方法を図を用いて説明します。お母さんの体を横から見たものが図3A、図3A同様にお母さんの体を横から見つつ背骨の周囲を細かく見たのが図3Bです。図3A・Bのように、背骨の隙間から「硬膜外麻酔」の管を硬膜外腔まで通し硬膜外腔に麻酔の薬を注入することにより、お母さんのへそから下の感覚を鈍くします。



日本産科麻酔科学会ホームページより引用

また、当院では外来での診察所見をもとに日程を決めて、陣痛促進剤などを用いて陣痛誘発を行う「計画無痛分娩」での無痛分娩を行っております。「計画無痛分娩」では、夜間や休日などマンパワーの不足する時間帯を避けることでより安全に無痛分娩を行うことができます。

無痛分娩のメリット

- お母さんのストレスが軽減されます
- 出産後の体力が温存されます。

無痛分娩のデメリット

- 吸引分娩、鉗子分娩の頻度が増えます
- 呼吸抑制、意識障害（麻酔薬が硬膜の内側に入ってしまうと起こります。）
- 頭痛（カテーテルを入れるための針が硬膜を傷つけると起こることがあります
→安静、水分補給、薬剤使用により数日で軽減していきます。）
- 硬膜外血腫・硬膜外膿瘍

以下に当てはまる方は無痛分娩をお受けできないことがあります。

- 高度肥満のある方（BMI>30）
- 側湾症や脊髄神経疾患のある方
- 局所麻酔にアレルギーがある方
- その他、医師が判断した方

無痛分娩の費用

- 無痛分娩に必要な薬剤・部屋代を含めて9万円（1日で分娩に至らず2日かかることもあります。食費だけは、日数分でいただきます。）
- 吸引、鉗子分娩、産後の処置（出血など）は保険請求となります。